

えひめいきもの応援キッズレポート (提出用)

名前 青木 祐太郎

作成日 1427.10月31日

1. 選んだ生きもの名前

※写真やスケッチがある場合は、このレポートと一緒に提出してください。

種名 ウナギ目ウナギ科 *Anguilla japonica*

学名 ニホシウナギ

愛媛県レッドデータブックの 카테고리 絶滅危惧2類(VU)

2. 選んだ理由 (調べようと思ったきっかけ)

夏休みの課題図書で『うなぎ1億年の謎』を読んだ。日本人になじみの深いうなぎの1億年前からの言迷が何だったかわかた。うなぎの産卵場所だ。2009年に初めて日本人が突きとめた。アリアテの海だった。

これまで、加茂川で5月に10センチ以下の細く黒いうなぎのち魚や、大三島の台の川で7月に20~30センチ(?)の黄色いうなぎを見たことがある。本を読んで、それぞれ、リゴ工、黄うなぎと呼ぶこと、川で大きくなって海で卵をうみ、5~6センチのシラスウナギで川に戻ってくることを知った。卵からレポートになると3はまだあまり明らかでないようで、人工で育てるのは難しいという事だ。たぬび、完全養殖の研究を愛大とおさかな食官でしていると聞い、詳しく知りたいと思った。

3. 選んだ生きもの特徴

予想していたこと

-夜行性

・川に岩や石土でかくれる場所が必要。

・プランクトンやエサを食べる?

・シラスウナギからウナギに養殖するのは簡単だけど、卵からレポート、シラスウナギに育てるのは難しい。

調べてみて分かったこと

・うなぎは水に入るとかくれたいとストレスをかんじる。

・まぶたがなく、目をあけたまま

・ウナギの血液にはイワシオキシンという毒があり、加熱しないと人は食べれない

・全身筋肉

・人が育てるとオスになるので、ホルモンをエサにまぜてメスにする。

・おさかな館は愛大に渡す前のメスに卵を授けしている。

4. 各パートナーズ施設へ行って、どうやって調べたのか

愛媛県生物多様性センター

愛媛県総合科学博物館

愛媛県立とべ動物園

面河山岳博物館

虹の森公園 おさかな館

展示と説明を見たり聞いたりした。夕方に7~8のうなぎをさあつた。

5. 聞いたり、調べたりした内容、分かったこと (結果)

(例1) 生きものがある環境 (例2) 数が少なくなった理由

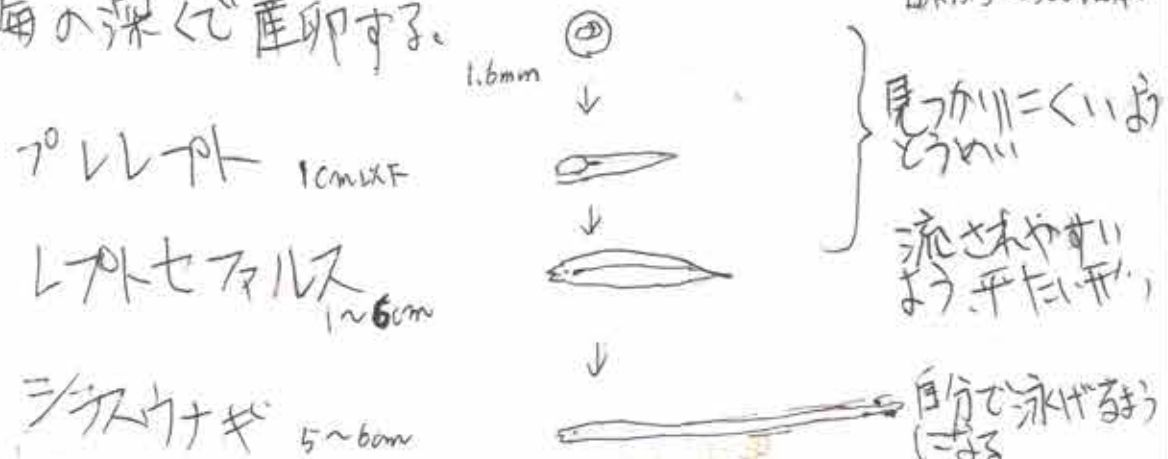
の広見町の天然うなぎについて
 1) 30年前は梅雨の頃、ち魚が列になりせきを登り、うなぎ柱が見えるほどたくさん、広見川(四万十川の支流)にいて、じごくという仕掛けで、子どもも簡単にうなぎをつかまえることができた。

2) 数が少なくなった理由

- ・シラスウナギのとりすぎ
- ・地球温暖化で海水温の上昇
- ・海流の変化

(プレートセラルスは平たい形、流されやすい形をしている) 潮の流れを利用して移動する

① うなぎの産卵からシラスうなぎになって地元に戻りまでは夏の新月(ま、黒なので見かけにくい)に合わせて南の海の深くで産卵する。



② うなぎはかにかく海を旅し、先祖が育った川に戻って来ていることをわかった。

6. 今後、どんな生きものについて学んでみたいか

10年くらいで研究の成果が出るように言われているので、うなぎの卵からシラスウナギまでの生態が明らかになるのを期待したい。
 今回いきもの応援キッズの学習をして、生き物は全然有名でなくみんな何も思っていないうちに絶滅していくと思った。いきものの生態をよく知ると、いきものを守ることはできる。

えひめはあたたかい所のさびやなうから、標高の高い所のマ竹林、シオパークにある西予の何億年前の化石とか、しょう洞、海、干潟、山川、畑と豊かな自然の中に、まだよく知られていない生き物が多い。数を減らさないよう身近なところにいる、よく知られていない生き物の生態を知ることが大切だと思った。

7. その他、参考にしたもの

『うなぎ1億年の謎』



2015年7月26日
 大島台地
 へ行く。
 補足レポート
 新聞 No.13

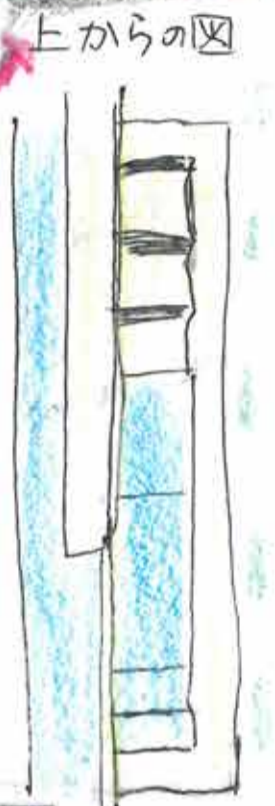
新聞 No.5,6 参照
 ↓ 大島台地
 この隣の川に

2015年7月26日

保護区にいない!? ナゴヤダルマガエル

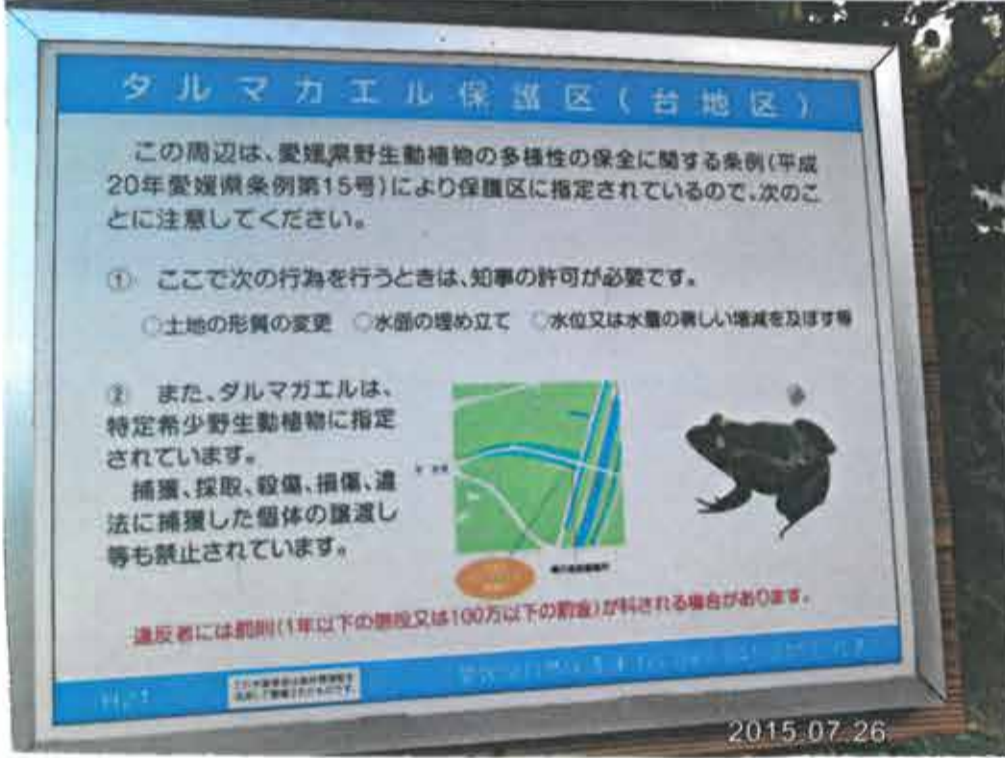
大三島の自然の新聞 Part 1

青木 祐太郎



県主催の自然観察会が7月26日大三島であり、20組の親子がナゴヤダルマガエル保護区で田んぼの生物観察をしました。アメリカザリガニやゲンゴロウがいきました。

H20に保護区に指定された台地区写真中央におくぐりしたダルマガエルのための階段が作られていた。通れる所が限られていてコンクリート。使い勝手は??。水位のない時期用かな?



は人ぼを作っている時は大丈夫だけれど、人が手をかけて田んぼを作っている時に農薬や草枯らしの量が住める環境を目標にしていました。

県内での目撃は二〇〇五年が最後!?

ナゴヤダルマガエル



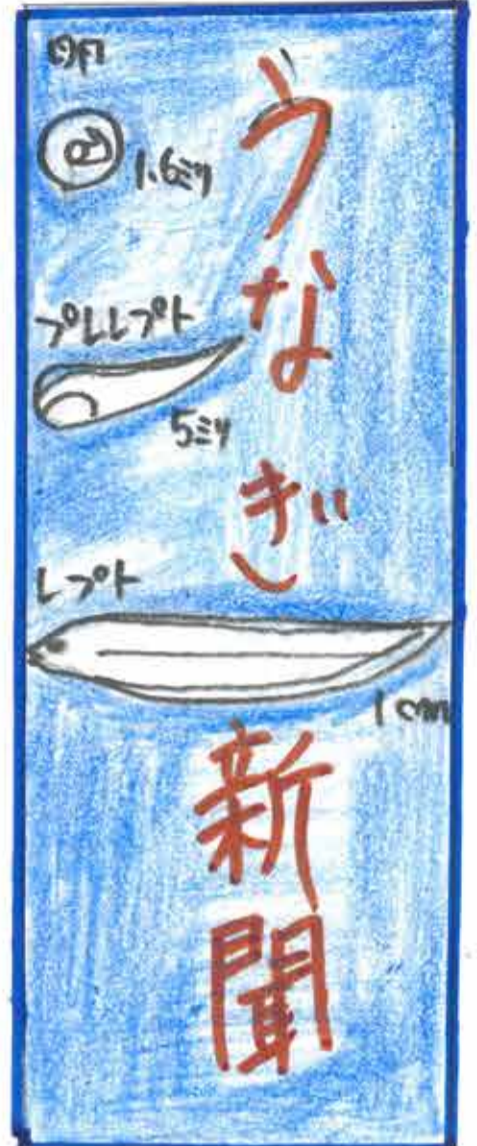
後足が短く、ジャンプ力は弱い。おなかにまぶらもようがある

人手がなくなったら農薬や草枯らしの量が増えそう。そして稲作をやめること水もエサもカエルが住める環境がなくなる。薄い皮の小さなカエルの命はあっけない。気がついた時は一刻を争う状況まで来ているということか。手遅れになる前の対策は何かあったのか。



えひめ生きもの応援キッズの学習会がおさかな館で10月17日ありました。広見町は天然うなぎの産地で、30年前までは「じごく」と呼ばれ

地獄魚が盛んだった



青木 祐太郎

る仕掛けで簡単にとってしまいました。梅雨の頃稚魚が列になり堰を登るうなぎが柱が見えたりうでず。

●せまい所が好き。

砂の底にかくれている。ヌルヌル。



うなぎがマリアスの海で卵を生むことを2009年に日本人が発見しました。夏の新月に合わせて産卵、アレレポトセファルス(1cm)は敵に見つからないよう透明でレポトセファルス(1.5-6cm)は海流に流されやすいよう平たい形をしている。広見川のうなぎもマリアス海へ行き卵を産み、流され、シラスウナギ(5-6cm)細長い体で自分で泳げるようになった。また広見

かしこく旅する
ニホンウナギ



川へ戻ってくる。川でクロコ、黄うなぎ、親となり、卵を産みに海へ出る。

人が育てると全部オスになる

えさにメス化ホルモンを入れたメスにして、繁殖研究のため愛犬に殺している。

うなぎの生態

せまい所が好き
川の石のすきま

- 目をあけて寝る
- 生は毒がある
- 夜行性

本人ではなく、親が育った川に、遠い海からなせ戻って来れるのが不思議です。